【特別活動等の多様な実践活動を生かした指導】

●指導のポイント

【研究主題】
「対話を通して学びを深める児童の育成」～“龍頭学習”の単元開発を通して～

【研究仮説】
“龍頭学習”を中心に，各教科と総合的な学習の時間・道徳の時間・特別活動等を効果的に関連付ける単元開発を行い実践すれば，主体的に学ぶ児童が育つであろう。

■本校の研究の経緯

本校は昨年度，学区の中学校と連携し，“「学び」を「生き方」につなぐ道徳教育の創造～共感と感動と語り合いのある道徳の時間を通して～”を研究テーマとして道徳教育の研究を行った。

その研究の成果として，小中での共通した取組による授業づくりシステムや行事や教科等を関連付けた学習プログラムを開発し，児童の道徳的実践力の向上がみられた。課題としては，道徳の時間の指導と道徳的実践をつなげるための更なる工夫が必要だということを確認した。

今年度は，昨年度の道徳を中心とした研究の成果と課題をもとに，“龍頭学習”を中心に，次の点について一層の改善・充実を図ることとした。

＊龍頭学習：身近な地域を題材として学ぶ学習を，地域を代表する景勝地である「龍頭峡」になぞらえて「龍頭学習」と名付けた。

■取組の具体

１　地域の特色を生かした道徳教育

地域の特性である「森林」をベースにした多様な学び・体験を生かし，地域の関係諸機関等との連携を図りつつ多面的・多角的に道徳的価値に迫る。

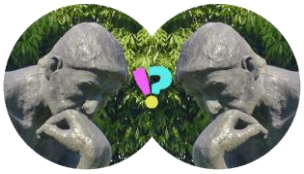
２　他教科等を関連付けた単元開発

道徳の時間と他教科等，とりわけ総合的な学習の時間・特別活動とを効果的に関連付けることにより，道徳的な諸価値についての理解を図り，人間の生き方についての考えを深める。

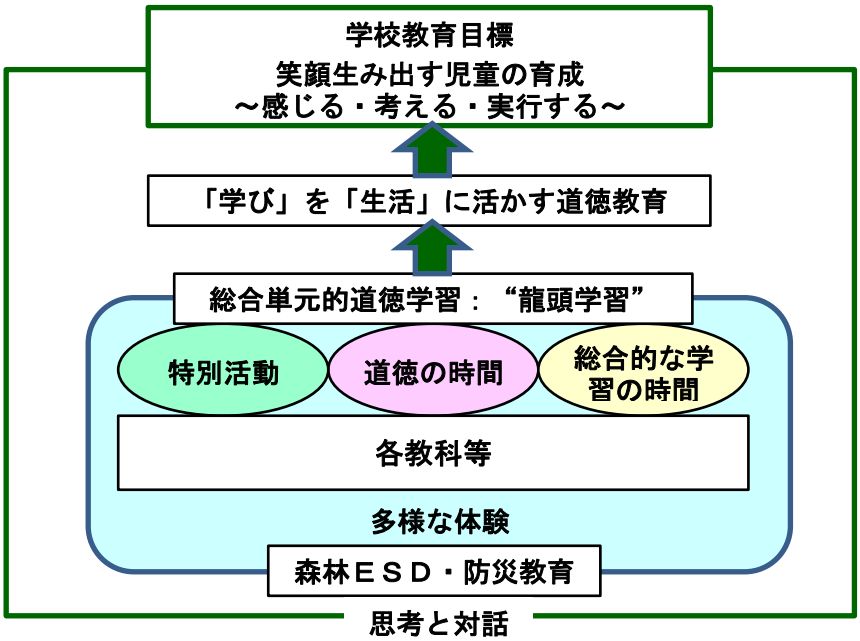
３　対話を重視した指導の工夫

対話（他者・自己・環境）を通して道徳的価値について深く考えさせ，「いま・ここ」の自分を基点に地球的視野で未来を見据え，自分・他者・社会・自然とのつながりに気づかせる。

これらを通して，主体的に自己の生き方について考え実践する児童の育成を図る。



【重点内容項目】
- **「勤勉・粘り強さ」**
- **「自然愛」**
- **「郷土愛」**



●指導計画

本校では，身近な学習環境である「ふるさと筒賀」の自然・歴史・文化・人等との出会いを大切にし，豊かな体験を通して学ぶことで，学校教育目標の具現化をめざしている。その中で，道徳教育の要である道徳の時間は，子供達の考えを深める場として重要な学習として位置付けている。

また，特別活動は，実際の体験を通して道徳的価値について「気づき・考え・実行する」場として重視している。更に，総合的な学習の時間は，道徳的価値と自分たちの生活とのつながりについて多面的・多角的に学びを深める時間となるよう単元の開発を行っている。

■道徳の時間の計画

道徳の時間の年間指導計画は，各時間の「ねらい」や「主題構成の理由」などと共に各教科等との関連についても明示し，教科等との相関を図った横断的な学習が計画的に実施できるようにしている。

第３・４学年　道徳の時間の年間指導計画

【目標】

○自分でやろうと決めたことは粘り強くやりとげる。
○自然のすばらしさや不思議さに感動し，自然や動植物を大切にする。
○郷土の伝統と文化を大切にし，郷土を愛する心をもつ。

重点項目を明記

教科等関連を明記

月	主題名	資料名(出典)	ねらい	主題構成の理由	展開の大要及び指導の方法	関連する教育活動等	その他
4	1－(1)よく考えて節度ある生活を	「あつしの計画ひょう」（どうとく東京書籍）	時間を大切にして，計画的に過ごすことによって，節度ある生活をしようとする態度を養う。	自立した生活ができるように，時間を有効に使うこと，計画的に使うことを考えることができる。	○お姉さんの話を聞いたとき，あつしはどんなことを思ったのか。 ◎あつしは，どんな気持ちから計画表をつくってみようと思ったのか。 ○お母さんに計画表を見せにいくときのあつしの心の中は，どんなだったか。	学級活動	わたしたちの道徳 p.10－11
	2－(2)思いやり，親切	「心と心のあく手」（わたしたちの道徳）	相手のことを思いやり，進んで親切にしようとする態度を養う。	思いやりとは，相手の状況や心情を理解するなどして相手の立場に立って考えることが大切であることを学ぶことができる。	○数日後，再び一生懸命坂を登っているおばあさんに出会う場面で，自分だったらどうするか。なぜそうするか。 ◎ぼくはどのような思いから，おばあさんの後をついて行ったのか。	龍頭班結成式	わたしたちの道徳 p.66－69
	1－(4)正直に明るい心で	「ぬれた本」（どうとく東京書籍）	正直に真心を持って行動し，明るく生活しようとする心情を育てる。	正直であり，真心をもって相手に対するからこそ，明るい生活ができることを感じることができる。	○リンカーンはどんな気持ちで本を借りたのか。 ○雨でびしょぬれになった本を見て，リンカーンはどんな気持ちになったか。 ○本の持ち主は，どんな考えでリンカーンに本をくれたのか。	運動会	わたしたちの道徳 p.40－41

地域のゲストティーチャーに学ぶ
（遠足の登山ガイド）

■特別活動と「総合」の関連整理

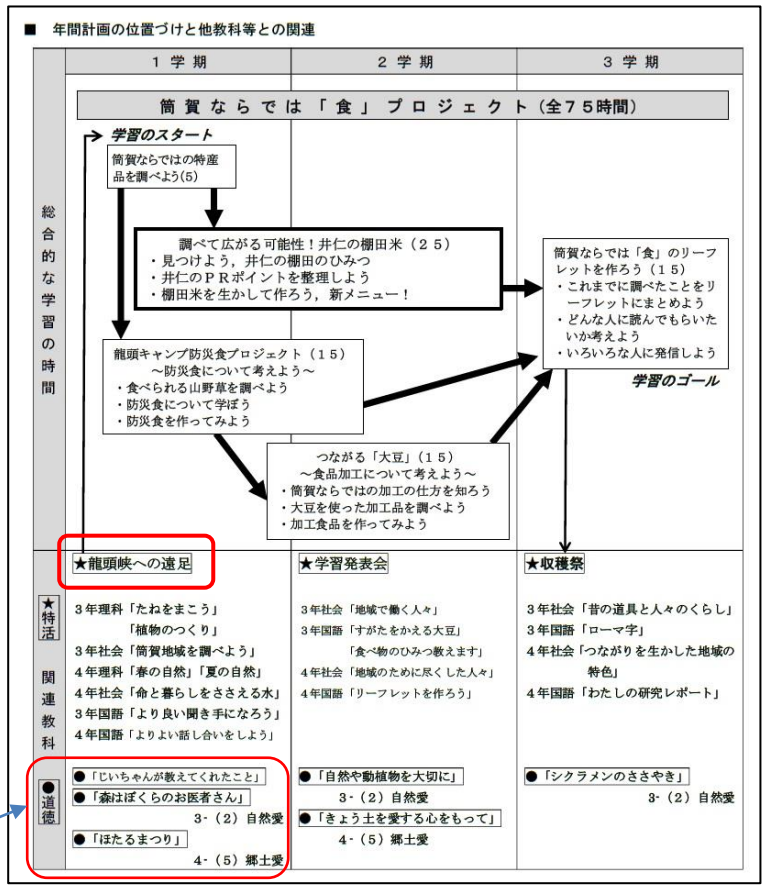
本年度の重点内容項目「勤勉・粘り強さ」「自然愛」「郷土愛」についての学びをより効果的なものとするため，春の遠足（上殿小と合同）場所を校区にある「龍頭峡」とし，全学年で展開する“龍頭学習”への導入とした。

全学年共に，ふるさとの大自然に足を踏み入れ，豊かな自然の美しさや木々の息吹の神秘さなどを体感した。

このような全校での体験の場を年間を通じて設定し，学びをスパイラルにつなぐよう工夫している。

なお，本年度は，道徳性の涵養と主体的な学びの充実を図るため，教科横断的視点から「総合的な学習の時間　年間指導計画」の見直しに取りかかっているところである。

森はぼくらのお医者さん【3-（2）】：3・4年



総合的な学習の時間年間指導計画（3･4 年：一部抜粋）

●指導の実際「５・６年の場合」

春の遠足（龍頭峡）：特活

全校児童で地域の名勝・龍頭峡への遠足を行った。この峡谷は，校歌に謳われる天上山水系の峡谷であり，清流や滝を間近に見ることができた。また，上流部では原生的天然林・引き明けの森（日本の秘境百選）の中を歩き，豊かな森の実際を五感で感じた。また，中高学年では急峻な山を粘り強く登り，大きな達成感を感じることにつながった。

体験を川柳・作文で表現：国語

遠足を終え，その体験で感じたことを川柳として表現した。また，日記や作文などにもその体験をまとめ遠足の振り返りを行った。

体験後の感想（高学年）

…引き明けの森まで行きました。歩いていたらとても足が痛くて大変だったけど，上まで着くと楽な気持ちになりました。
…奥には大きな橡の木があって，橡の実が芽を出していました。不思議な気持ちになり，これが木になったら…と考えてみるとワクワクしてたまりませんでした。

川柳（筒賀っ子　五・七・五）

にだんだき　みずきれいだよ　にじみえた
（一年）

さくら花　カーテンみたい　ひらひらと
（二年）

天上山　いろんなところが　デンジャラス
（三年）

耳すまし　川のせせらぎ　風ぬける
（六年）

体験を生かして思考：道徳の時間

自分たちが体験した遠足を通して感じ・考えたことを基に，自然の素晴らしさや愛護することの大切さについて考えた。また，ゲストティーチャーから地域の自然への思いを聞いた。

●学　年　　小学5･6年生
●主題名　　自然を愛する心【3－(2)】
●資料名　　「ーふみ十年」「森に生きる」…

全ての植物には命があるので，名もない花も大切にしたいと思います。

地域のゲストティーチャーに学ぶ
（天上山結クラブ）

「学び」を「生活」に活かす学び（龍頭学習）

総合的な学習の時間
～ふるさとの　“自然”を探究～
●中学年…井仁の棚田（棚田百選）
●高学年…龍頭峡・引き明けの森（秘境百選）

特別活動（学習発表会）
～ふるさとを謳う～
●全校合唱…「校歌」「ふるさと」…
●演劇…学んだことを表現・発表（英語劇など）

●龍頭峡全校キャンプ…克己心，自然愛，郷土愛

＜成果と課題＞

一連の取組によって，疑問点を進んで調べようとしたり，地域貢献したいという気持ちを具体的な行動へつなげたりするなど，児童の学習意欲や実践意欲に高まりが見られる。今後，道徳的価値に迫るためのより一層の授業改善と，学びが主体的実践につながるカリキュラム開発が必要である。